

特定非営利活動法人 東京YWCA ヒューマンサービスサポートセンター 会報

見守り、支え、伝えあう



発行所 NPO法人東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行人：石井須美子

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号

東京YWCA会館216号室 TEL・FAX 03-6273-7134

E-Mail：info@ywca-hssc.jp ホームページ：<http://ywca-hssc.jp/>

私達は、福祉・介護の
仕事のゆたかさを
広める活動を推進します。

Contents (目次)

- P, 1 **MAIN TOPICS** 2014年度理事会報告
- P, 2 2014年度上半期事業報告
- P, 3 活動報告～中国 YWCA 研修団の要請に応え1日研修を実施～
- P, 4 5 特集～白+字会 窪田暁子先生 研修会の記録出版記念の集いレポート～
- P, 6 オーストラリア研修レポート
- P, 7 会員交流ひろば 「Salon de YY」(サロンドわいわい)

MAIN TOPICS 2014年度理事会報告

第10回理事会が開かれました

代表理事 遠藤 久江

今年度の中間にあたる9月に理事会を開催しましたのでご報告します。

9月25日、理事5名、監事2名、欠席理事2名で開催されました。今年度は講師派遣事業が順調に進んでいる一方、第三者評価事業が苦戦しています。何件かの見積もりを依頼されて提出しているのですが、契約にまでゆきつかず、9月現在で一件もありません。予算は300万円をたてていまして、今後の見直しを検討しました。

第三者評価は現在、120余の評価機関があり、二極化されていると言われていまして。一方は受審件数も少なく、丁寧に実施しているところ、一方は3ケタの受審件数をこなし、経費も安く抑えているところ。私たちは4年目を迎えていますが、これまでの第三者評価の実績を振り返ってみますと、丁寧に、時間をかけて実施していますが、その評価内容は必ずしも十分ではないように思います。理由はスケジュール管理がうまくゆかず、一時期に集中してしまい、仕事内容が雑になってしまっていたこと、評価項目の記述の仕方に熟達しておらず、説得力のある表現ができていない等があげられます。加えて金額的にあまり安い見積もりができませんでした。これらは今後対策を講じて改善することはできますが、われわれの力量と、講師派遣事業との兼ね合いで、今後、第三者評価をわれわれの事業としてどのように位置づけるかが話し合われました。

第三者評価は依頼件数があると安定的な収入はあるのですが、事務量が多く、採算性はあまり高い事業ではありません。しかし、評価者はすべて卒業生からなり、私たちが行う評価活動だから協力したいと訓練を受けてくださった方ばかりです。完全にやめるわけにはゆきませんので、事務局体制の問題、他評価機関の動向、評価者の希望などを勘案し、来年度へ向けて検討を続けることにしました。今後の事業の方針を検討すべく、

1月頃に拡大理事会を開催することにしました。

2014 年度上半期の事業報告

2つの報告をさせていただきます。

先ずは、講師派遣事業と第三者評価事業についての報告です。

ご存じのとおりNPOの2つの柱として、研修事業と東京都福祉サービス第三者評価事業があり、安定的な経営を進めるうえでも2つの事業は車の両輪の機能を果たしていると考えております。昨年度の事業活動における収入の割合は研修事業（講師派遣事業と講習）約64%、第三者評価事業約36%でした。

今年度に入り、法人研修の依頼が増え、講師派遣研修事業における契約金額は（12月現在）2014年度事業活動費収入予算の74%に上っています。年度末までに講習事業を含めて100%の契約を目指していきたいと考えております。これまでの研修の実績が認められ契約数が着実に増えている研修事業においては、様々な要望に応えられるように努めてまいります。事業所の研修担当者・講師との対応もこれまで以上に時間をかけ、質の高い研修の実施に向けて取り組んでまいります。

講師派遣研修全体のコーディネーターを石井が行い、各法人、事業所毎に研修を担当する講師の中からリーダーを決め、より細かな対応ができるような仕組みを作りたいと考えております。講師の皆様の意向を伺いながら、可能性を検討し進めていく予定であり、研修成果を上げるためにスタッフ一同取り組んでまいります。

もう一方の事業である、第三者評価事業は、現在11名の卒業生が第三者評価者養成講習を受講し、評価者として活動しています。その経緯は、恩師から個別に第三者評価者の活動を通して、NPOを支えてほしいという思いに応えて、始まったものでした。これまでの実績は、2011年1件から始まり2012年7件、2013年10件と業績を上げてまいりました。今年度は、これまで依頼いただいた事業所が、評価機関を変更する時期となり、継続依頼がなかったこと、新規の契約が取れなかったことで、現在契約の見直しはありません。

第三者評価事業を進めてきたことで、評価機関として様々な課題が見えてきました。その課題を克服し、評価機関としてのレベル向上を目指すためには、1) 評価事業レベルの向上を図るために、評価者の研修に力を入れ、報告書の内容の充実を図るための仕組み作りにも取り組む。2) 事務作業を計画的に進め、評価事業のアンケート集計の効率化を図ることの取り組んでいきたいと考えております。

11月、評価者との話し合いをおこないました。「今後NPOが、評価事業から撤退することになったら、他の評価機関に移り活動を継続できるようにしていきたいと考えている」という提案に対して、評価者は、「Yが行う評価事業だから協力している。他の評価機関で活動することは考えていない」という考えを述べて下さいました。評価者の思いに応えるためにも、私たちの目指す第三者評価事業のあり方を明確にし、継続した取り組みを進めていくために、課題に取り組み努力していきたいと考えております。

2月に拡大理事会を開催し、理事、監事、講師派遣研修の講師、評価者、事務局スタッフとの意見交換を行い、

2015年以降のNPOの方向性と事業内容について意見交換していく予定です。

2つ目の報告は、事務局の仕組み作りについてです。

スタッフ会議を9月から開いて、事務局の動きを共有・確認し、効率的な事務を進めるための仕組み作りに取り組み、スタッフの動きが見えるNPOを目指し取り組んでいます。スタッフ会議の成果として、講師にご協力いただき、講師給・交通費の支払い方法を10月より変更し、効率の高い事務手続きを目指しています。事業の取り組み、スタッフの動きが見える事業所として仕組みを整えていきたいと考えています。事務局長 石井須美子

2013年度事業実績と2014年度事業				
	事業内容	内 訳	2013年度実績	2014年度(12月現在)
講師派遣研修	継続研修	法人研修	1箇所	3箇所
		高齢者施設	4箇所	4箇所
		障がい者施設	1箇所	1箇所
		社会福祉協議会	1箇所	1箇所
	単発研修	高齢者施設	6箇所	5箇所
		障がい者施設	1箇所	1箇所
		社会福祉協議会	5箇所	2箇所
講座講習	介護実習指導者講習会	YWCA関連	0	1箇所
		1,2月実施	受講生25名	定員30名

活動報告 ～中国 YWCA 研修団の要請に応え1日研修を担当～

中国 YWCA 社会福祉事業研修団の来日に伴い、地域高齢者ケアを学ぶ研修に講師派遣を行いました。2014年10月19日(日)～24日(金)の来日スケジュールのうち、10月20日(月)の研修を当 NPO が担当いたしました。

今回の研修は、日本 YWCA が窓口となり、東京、大阪、神戸 YWCA の協力により実現されました。中国 Y の福祉事業への協力は、東京 YWCA の100周年行事の一環として始まったものであり、専門学校時代には、北京(2回)・杭州(1回)の介護員養成講習をおこないました。研修の成果は、中国の各省における介護事業に繋がり、現在取り組んでいる福祉事業を更に展開していくために、今回の研修団の訪日を実現したもようです。

訪日団の要望を受け実施した研修 実施場所 東京 YWCA 会館

10月20日(月)	講師	研修内容
第一部 9:00～11:30	徳森	日本の高齢者福祉政策 有償生活支援サービス活動
第二部 13:30～16:00	遠藤	東京都福祉サービス 第三者評価者事業の取り組み

研修参加者は12名。北京、上海、杭州など中国各地の YWCA からの研修生のみなさんは大変意欲的で、熱心に受講されました。質問も活発に出ていました。中国ナショナル Y スタッフの施海^{シ-はい}さんが、研修資料を事前に中国語に翻訳し、研修当日の講義も同時通訳を担当してくださり、研修内容の理解が進んだようです。

昼休みには、皆さん一緒に東京 YWCA 会館近くのレストランでランチ。徳森講師、事務局スタッフとの交流を楽しみました。研修生の方々は、ランチの間にも講師に質問したり、熱心な様子でした。また日本に到着して、秋葉原でのショッピング、銀座でお寿司、友人と交流など東京での滞在を楽しんでいるというお話を伺いました。皆さん、日本のドラッグストアがお気に入りの様で、化粧品や湿布、食品など日本製のものを購入しているようでした。

ランチの後は近隣のビルの屋上庭園を散策。会話の弾んだお散歩になりました。午後の研修の後は夕方から東京 YWCA 主催の懇親会が、カフマンホールで行われました。お食事と共におしゃべり、歌ありの楽しいひとときとなったようです。

翌日以降は板橋センター、神戸 YWCA、大阪 YWCA への研修と続き帰国後の施海さんからは、

「とても短い滞在でしたが、充実、しかも効率のよい研修ができ、皆がこの旅が収穫満々な旅だったと評価しています。～中略～日本で学んだことは帰国してからよく整理をして、地元の事情に合わせて徐々に高齢者社会福祉事業を展



開いていこうというのが最後の反省会での意見でした。日本の社会福祉体制は20年以上をかけて今日のような細かい体制ができましたが、中国の社会福祉体制は最近にだされたもので、～中略～ 中国 YWCA は先に高齢者社会福祉事情を勉強して、自分なりに準備をして、政策が出されたらすぐ手を出せるように用意するのはとても必要であると思っています。今回の研修は大変勉強になった、又は参考になったところが多かったと皆の意見でした。

本当にありがとうございました。今後とも、両 YWCA 間において高齢者社会福祉事業について協力して行こうとも期待しております。」とお礼のメールをいただきました。



今後中国 Y の福祉事業の取り組みを応援し、日中 YWCA の絆が深まるよう協力します。

白十字会 窪田暁子先生 研修会の記録出版記念の集いレポート～故窪田暁子先生に感謝を込めて

窪田暁子先生が2014年4月24日、84歳でご逝去されて、はや半年が過ぎました。東京 YWCA 理事長として財政再建・公益財団法人認可にあたられ、専門学校閉校という厳しい局面においても、職員の思いを大切に最終判断を下すなど、窪田先生はその生涯において YWCA と深く関わって下さいました。専門学校閉校という重い決断に対して責任を感じ、NPO の活動を常に見守り、応援して下さいました。NPO の主催する白十字ホームの研修にも全面的に協力してくださり、東京 Y を会場として、白十字会のグループスーパービジョン研修（GSV）は、3年間継続され、先生が事故で入院されるまで月1回開催していました。窪田先生の学びをまとめ、出版したいという西岡白十字ホーム長の熱い思いに職員が答える形で委員会が組織され、

『グループスーパービジョン研修会の記録～言葉・表情・しぐさ 窪田先生から学んだこと～平成23年6月13日～平成26年1月20日』がまとめられました。

11月22日（土）に出版を記念して懇親会が白十字ホームにて行われました。西岡ホーム長をはじめ、GSV 研修参加者の皆さんが多く参加され、現在の GSV 研修講師の潮谷先生、NPO の遠藤理事長、石井事務局長、スタッフもお招きいただきました。窪田先生と研修生との写真や先生の著作集が飾られ、あたたかな記念の集いとなりました。

集いの中で、記念誌の編集委員の皆さんや、GSV 研修に参加された皆さんが話された一部をご紹介します。

Kさん「窪田先生の研修を受講して、記念誌の編集に参加したことで自身の学びになり、窪田先生の教え、気づきをあらためて思い返すことができました。白十字の他事業所のメンバーと研修機会を持てたことも、先生のおかげかと思います。仲間、先輩たちと共に精進していきたいと思います。」

Sさん「GSV 研修の初期から参加し、先生の講演（2010年7月6日白十字ホームにて）も聴かせていただき、本当に良かったです。皆さんと共有できた時間は素晴らしいと思いました。くじけそうになったり、悩んだ時、この本を読み返して立ち戻ってがんばっていきたくてと思いました。」

Mさん「GSV 研修を1冊にまとめることができ本当によかったと思いました。何度もテープを聞いてテープ起こしをしたのが、いい思い出です。自分が実践をしていく中でこの本を読み返してみて、ああなるほどなあと思うことが多くて、何度も読み返して今後の自分の援助につなげていきたいなと思いました。ぜひ読んでください。」

Wさん「研修でいろんなことを学び、仲間もでき、あらためて冊子を読んでみて、迷った時、壁にぶつかった時、ヒントになる言葉がたくさん書いてあって、窪田先生のやわらかい声や笑顔を思い出したり窪田先生だったらなんとおっしゃるかなと思いました。」

Sさん「研修に参加したことで事業所間のつながりがすごく大事だと感じています。この YWCA の研修に参加できたことは本当によかったと思います。この冊子を読み返しながら仕事をしています。中堅職員の間にもこの冊子を読んでもらっています。」

Kさん「窪田先生の研修は単なるお悩み相談というのではなく、相手の立場を考える以上に、生活までどのように生きてきたか、その人間を考える、ということを学ばせてもらいました。答えというものはなく、いっしょに考えてもらいました。その人の考え方に寄り添って取り組んでいくつもりです。ありがとうございました。」

た。」

Mさん「皆さんが挙げてくださる事例の中で共感できる部分が多かったです。なかなか言いにくい職員間の色々な問題をあえて挙げてもらったのはありがたかったです。研修を通して学んだことは俯瞰してものを見る、ということです。実際にどう見ていくのかわかりませんでしたが、2年間で少しずつこういうことかと思うことがあります。」

Sさん「窪田先生のキレのあるトークがどんどん出てきてすごいなと思いながら参加していました。昨年先生と忘年会ができず、1月集まりましょうとおっしゃっていましたが、それが最後になり残念です。」

Tさん「同じ法人でも顔を合わせることがなかった皆さんと、この研修でケースを通していろんなことを共有できて本当に意味があることだと思いました。現在の悩みについて研修資料やこの冊子を読むことによって振り返ることができました。」

Kさん「違う職場の職員が違う場所に出かけていって研修をすることに意味があったと思います。研修の後、すぐ帰らずに食事をしながらまた研修のことを話しました。窪田先生の場の雰囲気作り、私たちに考えさせてくれるという、これを私たちが職場で作っていかねばいけないのだと思いました。」

Mさん「先生は研修中は厳しかったのですが、研修後の食事会ではやさしいお母さんのようでした。窪田先生、いつかまた高い空の上で研修会をお願いしますね。事例は私が担当します。しばらくはお会いできませんが、毎月第4月曜日は空けておいてくださいね。」

現GSV研修講師の潮谷先生より「今年2月から一緒に窪田先生のご講義を見させていただく予定でしたが、かないませんでした。入院中最後に「現場の実践は大事なのよ。」ととても大きな言葉をいただきました。『あなたはまだ学びなさい。』と伝えてくださっていると受け止めています。この冊子を読ませていただき、先生の足元にもおよばないと思いますが、私も力を尽くして、心を尽くして勉強させていただきながら務めていきたいと思っています。」

この記念誌を私たちの指針として、迷った時、悩んだときに頁を開いて、窪田先生の学びの原点に立ち返り、勇気をもって実践に活かしていただければ幸いです。このような冊子にまとめていただいたことで、YWCAで行われているグループスーパービジョン研修の価値を高めていただいたことは、素晴らしいことだと感謝しております。ありがとうございました。冊子をご覧になりたい方はNPOまでご連絡下さい。

グループスーパービジョン研修会の記録

～言葉・表情・しぐさ 窪田先生から学んだこと～

平成23年6月13日～平成26年1月20日

目次

- 1 はじめに
- 2 窪田暁子先生講演 2010年7月6日
「高齢者福祉施設におけるソーシャルワーク
～集団における個別コミュニケーション～」
- 3 スーパービジョン研修について
研修資料
 - i) ソーシャルワークにおけるスーパービジョン入門
 - ii) スーパービジョンにおけるカンファレンス
～その基本型と重要な原則について～
 - iii) カンファレンスの基本
その1～スーパーバイザーから、何を聴くか
その2～聴きながら、何を考えるか
その3～課題の状況を知り、それを共通の言葉で要

約する～



～窪田暁子先生略歴～

1928年生まれ。
1948年 東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）卒業、日本YWCA勤務
1952～1954年渡米、ラトガー大学を経てミネ

ソタ州立大学大学院修士課程でコノブカからグループワークを学ぶ

♪オーストラリア高齢者施設での研修レポート♪

オーストラリアの10月はジャカランダが咲き誇る美しい季節です。日本と反対の季節で春を迎えています。日本の桜まつりのような、ジャカランダ祭りの季節です。

丁度この時期に9名の高齢者施設の中堅職員の体験型の研修を実施しました。主催は公益財団法人愛恵福祉支援財団です。今回で3回目になります。この研修は、日常の業務から離れて、それも海外での高齢者施設での介護の実際に触れて、体験してみるにより自らの実践を振り返る機会として、より優れた実践の担い手として成長してほしいと願って企画されています。

実習先のリハビリガーデンはキリスト教の救世軍の社会福祉部にあたる場所が設置者です。勿論国の高齢者施設の認可を受けた、優秀な施設です。愛恵福祉支援財団とは長らく友好関係があり、積極的にかつ友好的に受け入れてくれています。

研修プログラムは右の通りです。

実習内容は主にダイバーショナルセラピスト（DT）の活動について行います。DTは利用者のより良い生活を作り上げる責任を持った専門職です。一日の

生活時間を管理し、活動プログラムを進める役割です。利用者の身辺介護はケアワーカーが行いますが日本からの実習研修はDTの下で行いました。軽費老人ホームはホステルと呼ばれており、比較的自立度の高い方の施設です。特養はハイケアを必要とする方々です。認知症の方もおられます。歩行可能な認知症の方々は認知症の施設で過ごしています。この施設は認知症の方々の特徴を加味した施設設備が整えられています。利用者とのコミュニケーションはもちろん英語ですが、研修生は英語力はとられません。利用者とのコミュニケーションは独自で工夫をしていますが、実習先には通訳を張り付けてありますので、難しい質問や疑問を明らかにすることはできます。

この研修に参加するには年度の初めに愛恵福祉支援財団が募集する研修に応募し、選考されて参加できますが、職場の推薦が求められます。毎年十数名の応募がありますので、現場のリーダー的な役割を担っている方を優先して選考するようにしています。参加費は10万円です。研修には財団から経験豊かな研修リーダーが付き細かなお世話をします。私は財団の研修担当理事をしていますので、この種の研修を企画し、実施する責任者として随行しています。

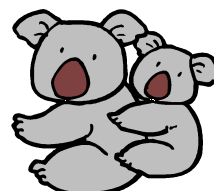
これまでの研修の感想として、職員の動きがゆったりしており、施設全体が明るくて職員も生き生きしている、利用者の自立性の尊重が徹底している、沢山のボランティアの参加がある等出されていました。期間中は一軒に2~3人でホームステイをしますので、オーストラリアの人々の生活を知る機会も多く、ホストファミリーとの素晴らしい出会いもあり、忘れられない研修のようです。

(遠藤久江)

～リハビリガーデン研修プログラム～

2014年10月5日(日)～15日(水)

- 1日目 オリエンテーション
- 2日目 講義1
オーストラリアにおける
高齢者福祉
講義2
認知症の理解
- 3日目 1グループ3名で
軽費老人ホーム・特養
認知症施設の実習
- 4日目 実習先の交代
- 5日・6日目は休日ホームステイ先
の家族と過ごす
- 7日目 実習先の交代
感謝会
- 8日目 ゴールドコースト泊
帰国



Information 会員の輪を広げて支えて下さい!

介護福祉士実習指導者講習会のお知らせ

ただ今受付中です。開催は2015年1月21日、31日、2月4日、14日の4日間。費用は25,000円。場所は駒込駅東口徒歩2分の愛恵ビル3階Bです。詳細は事務局またはホームページ。

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター会員のご案内

～会員になって、東京YWCAヒューマンサービスサポートセンターを支えてください～

2014年12月15日現在 92名(正会員76名、賛助会員11名、団体会員6団体)

いつもご支援ありがとうございます。税制優遇の為に正会員100名、賛助会員20名、団体会員10団体を目標としています。よりいっそうのご協力をお願いいたします。入会お申込みは事務局まで。

ご寄付いただいた方のお名前です。ありがとうございます。(2014年8月～2014年12月現在)

加藤さく子・渡辺美智子・原田千恵・遠藤久江・石井須美子・葛生禎子・戸田朱美・新堂武史・寺内真由美。誠に勝手ながら、敬称と金額は省略させていただいております。

会費振込みをお願いいたします。

年会費

正会員 3,000円/年

賛助会員 一口 10,000円/年 団体会員 一口 20,000円/年

会費振込先

(ゆうちょ銀行と東京三菱UFJ銀行の二箇所あります)

◆株式会社 ゆうちょ銀行 記号10170 番号80995501

※ゆうちょ銀行の口座からお振込みの場合、手数料無料となります。

◆東京三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

会費振込先2箇所とも口座名義は共通です

口座名義

特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター
代表理事 遠藤久江

会費の納入は
年内のうちに
お願いします



編集人のつぶやき♡12月、東京YWCA会館はクリスマスの飾りで彩られています。落ち着いたたたずまいの会館の目の前に、今年10月から巨大なビル(日大病院)がそびえ立ち、会館の1Fには薬局が入り、まぶしい照明(LEDかな?)を放っています。でも216号室はいつもとかわりませんので遊びに来て下さいね。

2014年12月27日～2015年1月5日まで冬季休暇をいただきます。

急用の方は、NPO携帯電話までご連絡ください ☎070-5586-8957

編集人

仲真葉・大庭幸

